

2025年度 町田市立木曽中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月6日

学校教育目標	・知性を磨き ・意志を鍛え ・健康な心とからだをつくる	学校経営の重点	○授業力の向上 ○生活指導力の向上 ○キャリア教育の推進 ○特別支援と不登校対策の充実
○目指す学校像………○全ての生徒が「楽しい」と思える学校 ○個が生き、相互に関わり合うことで集団として高め合える学校 ○保護者、地域と共にある魅力ある学校 ○目指す児童・生徒像……○当たり前のことを当たり前に行う生徒 ○目標に向かって前向きに取り組む、また、課題に対しては自ら解決を図ろうとする生徒 ○目指す教師像………○教育への情熱をもち、専門性を高め、常に生徒のよりよい育成を考えた指導を目指す教師 ○社会人としての常識を踏まえ、教育公務員であることの自覚をもち、公明正大で人間愛に溢れている教師 ○生徒、保護者、地域の願いに応えるべく努力を続ける教師 ○ワークライフバランスのとれた働き方を意識して、心身の健康に留意し、効率的に校務を遂行する教師		<b>重点目標の成果と課題</b> ・授業力の向上に対する取組として、「学び続ける力を育むための授業改革」を推進するための校内研究を実施した。主体的・対話的で深い学びを目指す授業実践をさらに推進していく。 ・落ち着いたある校内環境を維持しつつ、総合的な学習の時間では職業や進路に関する学習内容を発表する場を設定するなど、生徒が自信をもって発信する場をもつことができた。 ・不登校対応教員の配置により、エンカレッジルームの組織的な運用が進んだ。校内委員会の定期開催に特別支援教室との連携を強化していく。	

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	時機を得た積極的な情報発信を行い、開かれた学校、見える学校づくりを進める。	学校だより、学年だより、ホームページによる発信を計画的に行い、学校の情報を定期的に発信する。	4 たりよを学期に3回以上、HPは月4回以上の更新 3 たりよを学期に2回以上、HPは月3回以上の更新 2 たりよを学期に1回以上、HPは月2回以上の更新 1 たりよを年に1回程度、HPは月2回未満の更新	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	86.7	A	各種便りやホームページ等の情報発信に関する取組指標の評価はAとなるが、HPの更新頻度に偏りがあり、保護者アンケートではHPの更新が少ないとの意見もある。	ホームページは、週1回以上の更新を継続し、更新時期の偏りが起らないよう配慮する。学校だよりははじめとした各種便りは、今後も発行のペースを維持する。	クロムブックの家庭への持ち帰りが少ないことで、家庭学習での定着として実感している。学校内では？学校内では計画的に取り組んでいると思われず、特に学習発表時の様子を見て、情報収集や情報活用、プレゼン資料作成など将来に繋がる取り組みがなされていくと感じました。また保護者の学校や子どもへの興味・関心をより深める意味でホームページの定期的な更新は望まれるところです。	B	
			各種アンケートや学校評価をICTを活用して行い、回収率を80%以上にする。	4 アンケートの90%以上で取組を実施 3 アンケートの80%以上で取組を実施 2 アンケートの70%以上で取組を実施 1 アンケートの70%未満で取組を実施	4	A	4 アンケート回収率80%以上 3 アンケート回収率70%以上 2 アンケート回収率55%以上 1 アンケート回収率55%未満	56.9	C	アンケートの回収は昨年よりやや向上が見られたが、2回目のアンケート回収率は昨年同様の結果となっている。	各種アンケートの実施については、TELでの協力依頼を行うとともに、生徒を通して、アンケート回答を促すアナウンスを随時行うことで回収率の向上を図る。	Qubenaの朝学習の活用を継続し、各教科での活用や、長期休業日での課題の設定により更なる活用と学習習慣の定着を促す。		
		家庭や地域の教育力を活用した教育活動を実施する。	課題やICTを活用して、家庭学習を定着させる。また、年間を通して、Qubenaを活用した学習に取り組む。	4 90%以上の教員が計画的に実施 3 80%以上の教員が計画的に実施 2 70%以上の教員が計画的に実施 1 70%未満の教員が計画的に実施	2.6	C	4 80%以上の生徒に定着 3 70%以上の生徒に定着 2 55%以上の生徒に定着 1 55%未満の生徒に定着	76	B	地域人材の活用については、前年度並みの実施のため、保護者の評価も前年並みとなったと考えられる。	地域人材の活用については、ホームページで活動の様子は随時発信するとともに、協力いただける地域人材の検討に努める。	Qubenaの朝学習の活用を継続し、各教科での活用や、長期休業日での課題の設定により更なる活用と学習習慣の定着を促す。		
		教育活動に対して、計画的に保護者や地域人材の活用を図る。	4 計画した教育活動の90%以上の割合で実施 3 計画した教育活動の80%以上の割合で実施 2 計画した教育活動の70%以上の割合で実施 1 計画した教育活動の70%未満の割合で実施	2.6	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	67.2	C						
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	幅広い知識と教養に裏付けられた専門性を高め、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の定着を図る。	学習規律や板書等の共通理解を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授業を実施する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.5	A	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	93	A	市の施策である、「学び続ける力を育むための授業改革」の取組を推進し、全教職員で授業に関する研修を実施した。校内研修を通して、学習指導や学習規律に関する情報交換や共通理解を図った。	授業改革に関する取組は次年度以降も継続的に実施する。落ち着いた学習環境の維持に向け、学習規律の維持、教室の掲示物や板書等の授業に関するユニバーサルデザインに関する共通理解を校内研修の継続により、引き続き行っていく。	「自主的な学び」という観点では、校外学習の行き先を生徒がプレゼン授業で決めた、職業調べ等キャリア教育のICT活用も含め学校の取り組みはともないうち、生徒が関心をもち、積極的に取り組むよう努めていく。	B	
			ユニバーサルデザインの視点をもって生徒が安心して学ぶ授業を展開する。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.4	B	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	91.7	A	主体的で対話的な学びを深める授業については、各教科で工夫をした展開を教員は心掛けて実践しており、前年度より、教員による取組指標の数値も生徒アンケートによる成果指標の数値も向上している。	主体的で対話的な深い学びの実現に向け、各教科での工夫に加え、校内研修により教員間での情報共有の場を設定する。特に実教科におけるICT機器の活用や対話的な授業の実施を促し、「学び続ける力の育成」を意識した授業づくりに取り組む。Qubena等の一人一台端末の利用を促進するための取組を継続して行っていく。	ICT機器を活用した授業については、教職員は意識して取り入れ、前年度より実施していること回答しているが、生徒アンケートには目立った変化は見られなかった。		
		生徒が「わかった」「できた」という達成感をもつことができる授業を展開する。	4 90%以上の単元で実施 3 80%以上の単元で実施 2 70%以上の単元で実施 1 70%未満の単元で実施	3.5	A	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	68.8	C			ICT機器を活用した授業については、教職員は意識して取り入れ、前年度より実施していること回答しているが、生徒アンケートには目立った変化は見られなかった。	ICT機器を活用した授業については、教職員は意識して取り入れ、前年度より実施していること回答しているが、生徒アンケートには目立った変化は見られなかった。		
		ICTを効果的に活用し、生徒が一人一台のPCを使い、学力の向上を図る。	4 活用できる場面の90%以上の単元で実施 3 活用できる場面の80%以上の単元で実施 2 活用できる場面の70%以上の単元で実施 1 活用できる場面の70%未満の単元で実施	2.1	C	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	55	C						
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	「特別の教科 道徳」を要として、教育活動全体を通して、自分を理解し、相手を尊重し、生命を大切にす、相手を思いやる心を育む。	「特別の教科 道徳」の授業において、自他や生命を大切にす指導を継続的に行う。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.2	B	4 生徒へのアンケートの結果で80%以上が「よい」と回答 3 生徒へのアンケートの結果で70%以上が「よい」と回答 2 生徒へのアンケートの結果で55%以上が「よい」と回答 1 生徒へのアンケートの結果で55%未満が「よい」と回答	99.2	A	特別の教科 道徳の授業における授業に関して、多くの生徒はその学習にしっかりと取り組んでいると回答している。また、あいさつに関する取組については、生徒会によるあいさつ運動の実施等により、おおむね実践されていると生徒は考えている。しかし、教員の取組指標は前年よりやや低下している。	道徳の授業で、自分や他人を大切に思える学習に取り組んでいると答える生徒が非常に多い状態を維持できるよう、引き続き人権尊重の意識を高める指導を継続して行っていく。道徳の授業では、引き続き学年教員が協力し計画的に進めていく体制を維持しつつ、生徒の状況に応じた教材の工夫などにも取り組む。また、あいさつ運動については、生徒会の取組として継続して実施するだけでなく、教職員の働きかけも強化していく。	多国籍の生徒が増えたことで先生活の苦勞は容易に想像できません。ですが言葉ではないコミュニケーションの取り方を学ぶよい経験にもつながっていると思えます。	A	
			人権尊重の教育活動を進め、生徒会を主体とした挨拶運動や、教職員による働きかけにより、生徒の日常的な挨拶を推進する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.3	B	4 生徒アンケート満足率80%以上 3 生徒アンケート満足率70%以上 2 生徒アンケート満足率55%以上 1 生徒アンケート満足率55%未満	94.9	A	必要支援について検討する校内委員会では、毎週木曜日に定期的実施され、特別支援や不登校、エンカレッジルームの運用に関して検討を継続しているが保護者アンケートの数値はやや下がっている。	エンカレッジルームは、ボランティアさんの協力を得て開室日が前年度より増えている。	不登校対応については毎日エンカレッジルームを開いていることはいいことだと評価します。地域協力者の協力の有無ですが、開室時間については生徒の様子を見ながら柔軟な体制作りができることとおいいます。		
		様々な障がいや多様性を理解し、生徒が安心して登校できる環境を整え、一人一人を高め伸ばしていくような教育活動を行っていく。	校内委員会を週1回開催し、支援を必要とする生徒の情報共有を図り、具体的な支援を実践する。	4 年間90%以上で実施 3 年間の80%以上で実施 2 年間の70%以上で実施 1 年間の70%未満の実施	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	74.2	B					
		不登校対応巡回教員と連携し、不登校気味の生徒が利用できるスペース「エンカレッジルーム」の体制を整え、不登校対策に取り組む。	4 授業日は毎日開室する 3 授業日の80%以上で開室 2 授業日の70%以上で開室 1 授業日の70%未満で開室	3.3	B	4 不登校生徒数が全校生徒数の2%未満 3 不登校生徒数が全校生徒数の2%以上4%未満 2 不登校生徒数が全校生徒数の4%以上6%未満 1 不登校生徒数が全校生徒数の6%以上	3.4	B						
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	運動の日常化と健康教育及び食育の充実を図り、丈夫な体を作り、体力の向上を図る。	養護教諭と連携し、健康診断や検診等の機会を捉えて、健康教育を推進する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.5	A	4 生徒アンケート満足率80%以上 3 生徒アンケート満足率70%以上 2 生徒アンケート満足率55%以上 1 生徒アンケート満足率55%未満	80	A	夏休み前に熱中症予防講座を保健委員会の生徒を中心に全校で実施するなど、健康への関心を持たせる機会を随時もってきた。生徒アンケートによる成果指標の数値も向上しその成果が見られる。	昨年度より3年生で実施している熱中症予防講座を保健委員会の生徒を中心に全校で実施するなど、健康への関心を持たせる機会を随時もってきた。生徒アンケートによる成果指標の数値も向上しその成果が見られる。	熱中症対策を生徒の体験指導・様々な状況を想定しての避難訓練。どちらもよく取り組みと評価します。	A	
			体育科の授業を中心に、生徒自らが目標を立て、日常的に運動に取り組むよう指導する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	2.7	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	80.5	A			運動の日常化に向け、保健体育の授業で、体力をつける取組を継続して行い、給食指導を通じた食育に関する指導により、健康について考える機会を持たせる。		健やかな体づくりに欠かせない運動については家庭での運動量が減っている現状、体育科や部活動が担うウエイトは高いと思えます。また食育も欠かすことができない分野です。
		校内の危機管理体制を確立し、安全安心な環境を整え、危険予知、危機対応力を身に付けるよう安全教育を進める。	具体的な場面を想定した避難訓練や安全指導を毎月実施し、生徒自ら危険や危機に対応できるような指導を行う。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.7	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	78.1	B			避難訓練では、様々な場面を想定した訓練を継続して行うとともに、災害時の具体的な行動に関する安全指導にも力を入れる。自転車乗車時のヘルメットの着用、ながらスマホの禁止、暴漢に襲われそうになった場合の身の守り方など実践的な指導を計画していく。		給食の無償化もあり、成長期の子どもは「バランスの良い食生活」に調理実習の復活で、より食に対する興味関心を持つことができ、皆で作った事で苦手な食材も食べられるようになることも期待できます。是非とも検討いただきたいと思います。
		生徒の問題行動や安心・安全等に関する情報を共有し、組織的な指導、支援を行う。	4 90%以上の必要情報に対して実施 3 80%以上の必要情報に対して実施 2 70%以上の必要情報に対して実施 1 70%未満の必要情報に対して実施	3.7	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率55%以上 1 保護者アンケート満足率55%未満	80.4	A						

<b>取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)</b> 取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	<b>成果指標評価基準</b> 成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	<b>学校関係者評価の評価基準例</b> A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善 ※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。
---	---	--

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。